

11. タイ大学関係者来校

タイ大学関係者の訪問とタマサート大学生との交流プログラム

－学生による社会参画によって、自分と社会はどのように変革できるか？－

明治学院大学の協定校であるタイのタマサート大学教職員とその学生6名、およびその他の大学教職員やタイのNPO等の関係者、総勢31名が11月9日(月)から3日間にわたり、明治学院大学白金キャンパスに来校した。このプログラムは、International Association for Volunteer Effort (ボランティア活動推進国際協議会、IAVE)の協力のもと実現した。タイの関係者と明治学院大学の学生・教職員による会議の開催や、授業への参加等を通して、タイと日本の学生同士がボランティアについてより知識を深め、社会参画活動への道に踏み出していくことを目的とした。

初日9日には「学生による社会参画によって、自分と社会はどのように変革できるか？(How can civic engagement by students change themselves and society?)」というテーマで、両国大学関係者が学生の社会参画学習の実践について発表をおこない、その後双方の立場からビジョンや課題等を語り合った。10日には横浜キャンパスに場所を移し、明学生とともに大学キャンパスまでゴミ拾い(ボランティアセンター学生メンバーの活動「どうせ登校するなら」)をして戸塚駅から登校し、その後は市民社会への学生の関与について、タマサート大学で教えていた教員らを交えてディスカッションをしたほか、タイにおける格差問題について扱う授業に参加するなど、両国の社会状況とそれに対する学生の関わりについて意見交換を進めた。最終日には、タマサート大学生は東戸塚駅に隣接する子育て支援拠点に明学生と一緒に訪問し、子どもにタイの遊びを伝えるなど、親御さんを含めての交流が進んだ。午後は、横浜・寿町を訪れた。さらに横浜市国際交流協会(YOKE)が運営に関わる多文化共生を支えるラウンジを訪問するなど、明学生の活動拠点を訪問しながら、日本社会の抱える課題とそれに対する市民の取り組みについても理解を深めるとともに、ともに社会に対してどのような活動ができるか考えを出し合った。

タマサート大学とは、2004年のスマトラ沖地震後の連携活動をきっかけに相互交流が始まった。

これまでは明学生がタイへ訪問する形であったが、今年はタイの学生が来日して、学生同士の学びあいの場が生まれ、帰国後もICTを活用して双方のボランティア実践を報告し合うなど、交流が続いていく予定である。今回の交流のテーマ「学生による社会参画によって、自分と社会はどのように変革できるか？」に向けて、今後も両校による学び合いを充実させていきたい。



(ボランティアコーディネーター 市川享子)